PERIODICAL

#50

#50

Oct. 1957 operation

JUL 1958
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE
SERVICE

鮪漁業　第五十号　昭和三十三年六月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可

鮪漁業

Tuna Fishing

―航海中のビン玉作業―

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

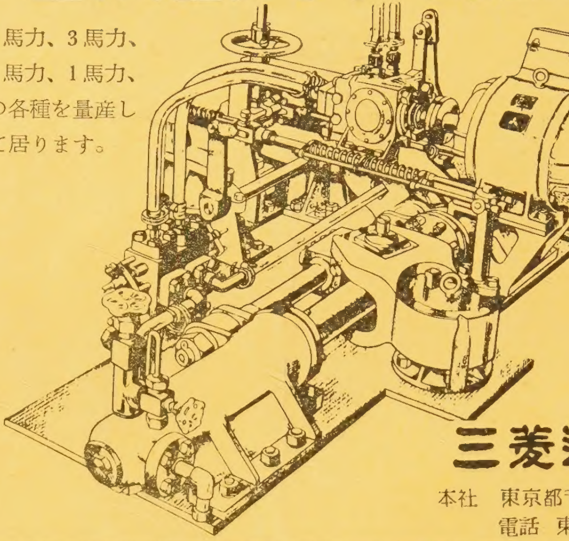
鮪漁業　研究会

No. 50, 1958

漁船用

三菱小型ジャネー式電動油圧舵取装置

5馬力、3馬力、
2馬力、1馬力、
の各種を量産し
て居ります。



商船及び艦艇用として
多年絶対的信用を博し
ている三菱ジャネー式
舵取装置を漁船用とし
て小型化したもので既
に数拾台以上が漁船に
取付けられ好評を得て
居ります。

三菱造船株式會社

本社　東京都千代田区丸ノ内2の4（三菱本館）
電話　東京（28）代表5111．3111．0331

光電の方探

Koden のロラン

株式会社 光電製作所

Koden Electronics Co. Ltd.

東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金(44)代表１１３１～７番

―目　次―

鮪漁船紹介　第11 高取丸　第8 海神丸

鮪漁場図（昭和32年10月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年10月現在）…………1

1. 調査の概況…………1
2. 漁況の概要…………1
3. 各海区の漁況…………2

A．赤道以南140°W以東漁場…………2
B．赤道以北180 140°W漁場…………2
C．赤道以南180-140°W漁場…………4
D．北部太平洋漁場…………4
E．旧南洋庁沿海漁場…………5
F．ソロモン以南漁場…………6
G．東部印度洋漁場…………8
H．西部印度洋漁場…………8
I．大西洋漁場…………8

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年10月操業分）別表 1…………10

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年10月操業分）別表 2…………12

会員レポート　北部さんご海の10月の気象，海象及び漁況…………第2 さつま丸船長 会員 神原 勇……17

鮪類標識放流について…………18

卵巣熟度を異にするキハダとメバチの分布海域について…………和歌山県水産試験場 榎田昭一……19

鮪類水揚価格表（昭和33年４月）三崎…………21

海のおとぎばなし…………まえだひろし……22

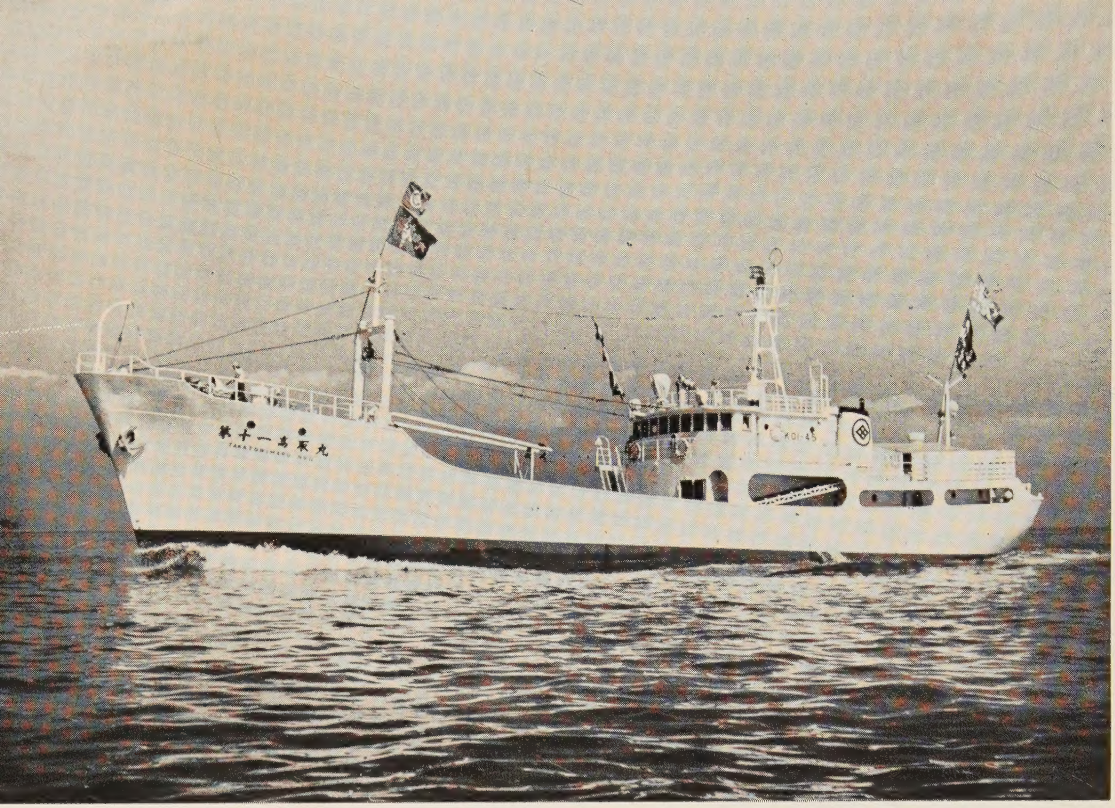
＝新漁具紹介＝ 発光餌…………会員 池田義明……23

業界メモ…………24

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　**三保造船所**

本社　静岡県清水市三保3797　電話清水(2)代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話 千代田（27）5522．6775．9761番



第 11 高 取 丸

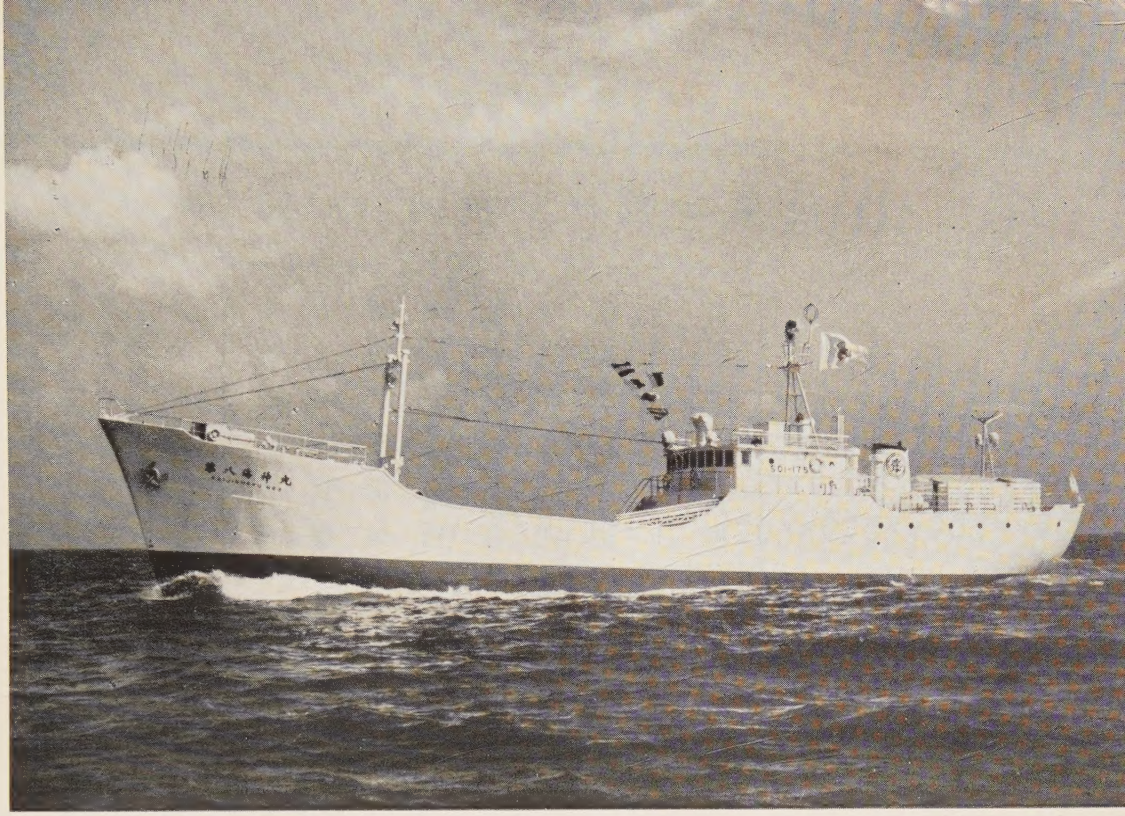
船主　米沢松之助（高知県）
造船所　株式会社 金指造船所

主要寸法		長42.81m×幅7.50m×深3.80m
総屯数		361.09屯
魚艙容積		341m³
燃料油艙		183m³
速力		最大 11.601節
主機	デーゼル650IP（阪神）	1基
補機	デーゼル105IP，85IP（阪神）	各1基
無線	200W，75W（安立）	各1基
冷凍装置	フレオン12 50IP，40IP（大阪金属）	各1基
レーダー（安立），方探（光電），音測（産研），G.C.P.（東計），其の他		各1式
竣工		昭和32年10月30日

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社 金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話 清水(2) 4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話 清水(2) 5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話 芝(59)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851



第 8 海 神 丸

船主	栗林嘉七，高塚清治（静岡県）	
造船所	株式会社 金指造船所	
主要寸法		42.81m×幅7.50m×深3.80m
総屯数		368.33屯
魚艙容積		405m³
燃料油艙		198m³
速力		最大 11.685節
主機	デーゼル650HP（赤阪）	1基
補機	デーゼル100HP（川口）	2基
無線	200W，75W（穂高無線）	各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式 75HP，50HP	各1基
レーダー，方探（光電），音測兼魚探（産研），M.C.P.（東計），其の他		各1式
竣工		昭和32年10月20日

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736―7（直通）
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）　3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34金指造船所三崎出張所内TEL.三浦2851

施工船名

第8海神丸
第3東水丸
第18光洋丸
笠置丸
第15丸高丸
第18海王丸
（其の他約五百隻）

▷ 最高の技術＝永い信用 ◁

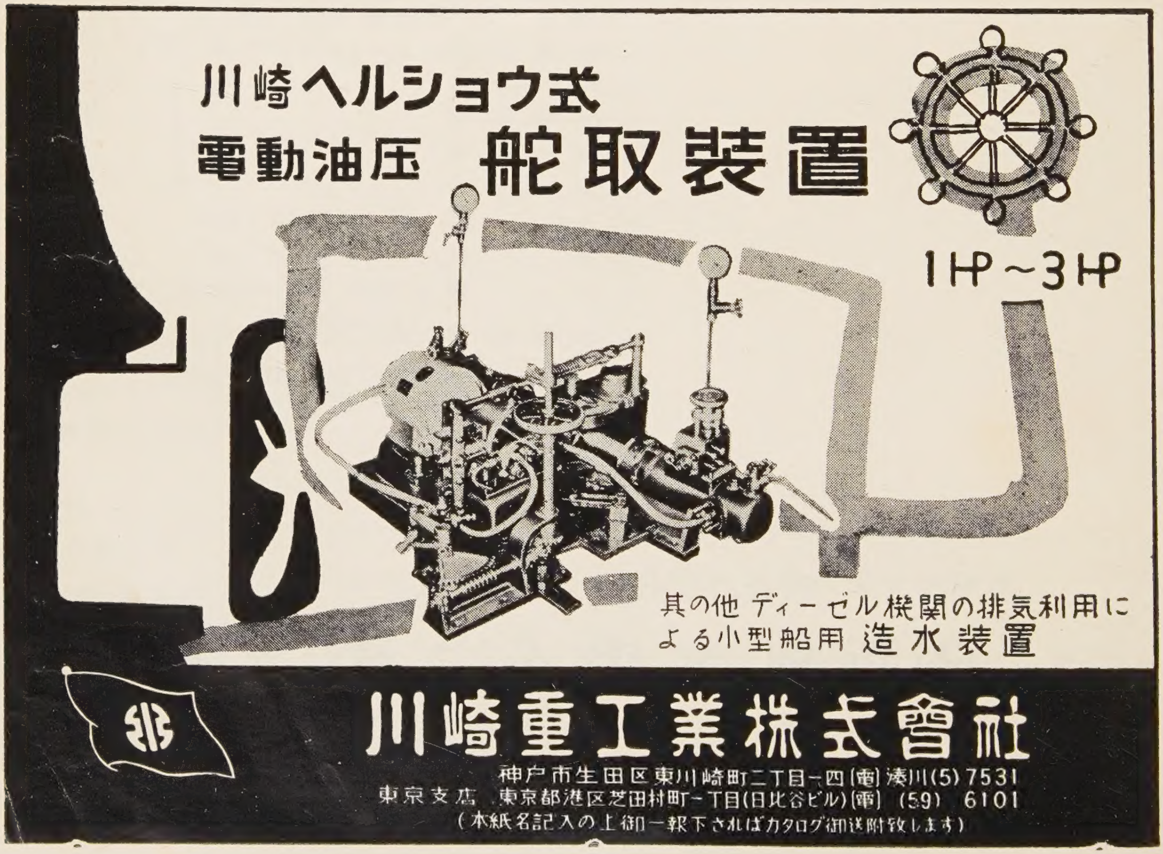
営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオヒーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長 山下知二郎

本社・工場 東京都北多摩郡狛江町和泉150 電話 砧(41)(代)7171—9番
電話 武蔵調布472番
東京営業所 東京都港区芝西久保桜川町 9 電話 芝(43)代表7373—9番
大阪出張所 大阪市北区中之島2の25(江商ビル508号室) 電話 北浜(23) 4553番
福岡出張所 福岡市天神町55(伊藤ビル) 電話 中(4)2589・8198番


川崎ヘルショウ式
電動油圧 舵取装置
1HP～3HP
其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四 (電) 湊川(5)7531
東京支店 東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル) (電) (59) 6101
(本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します)

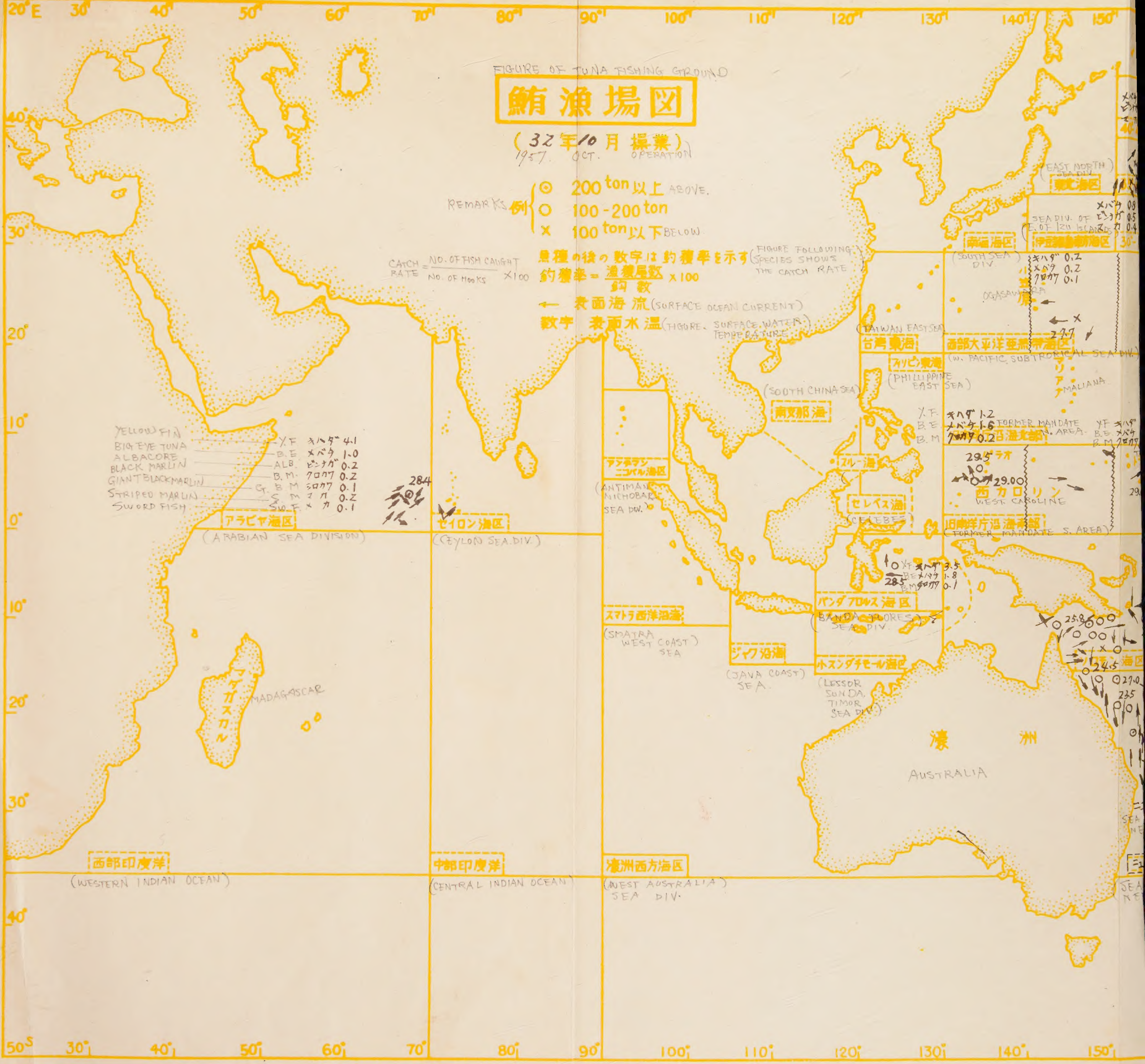
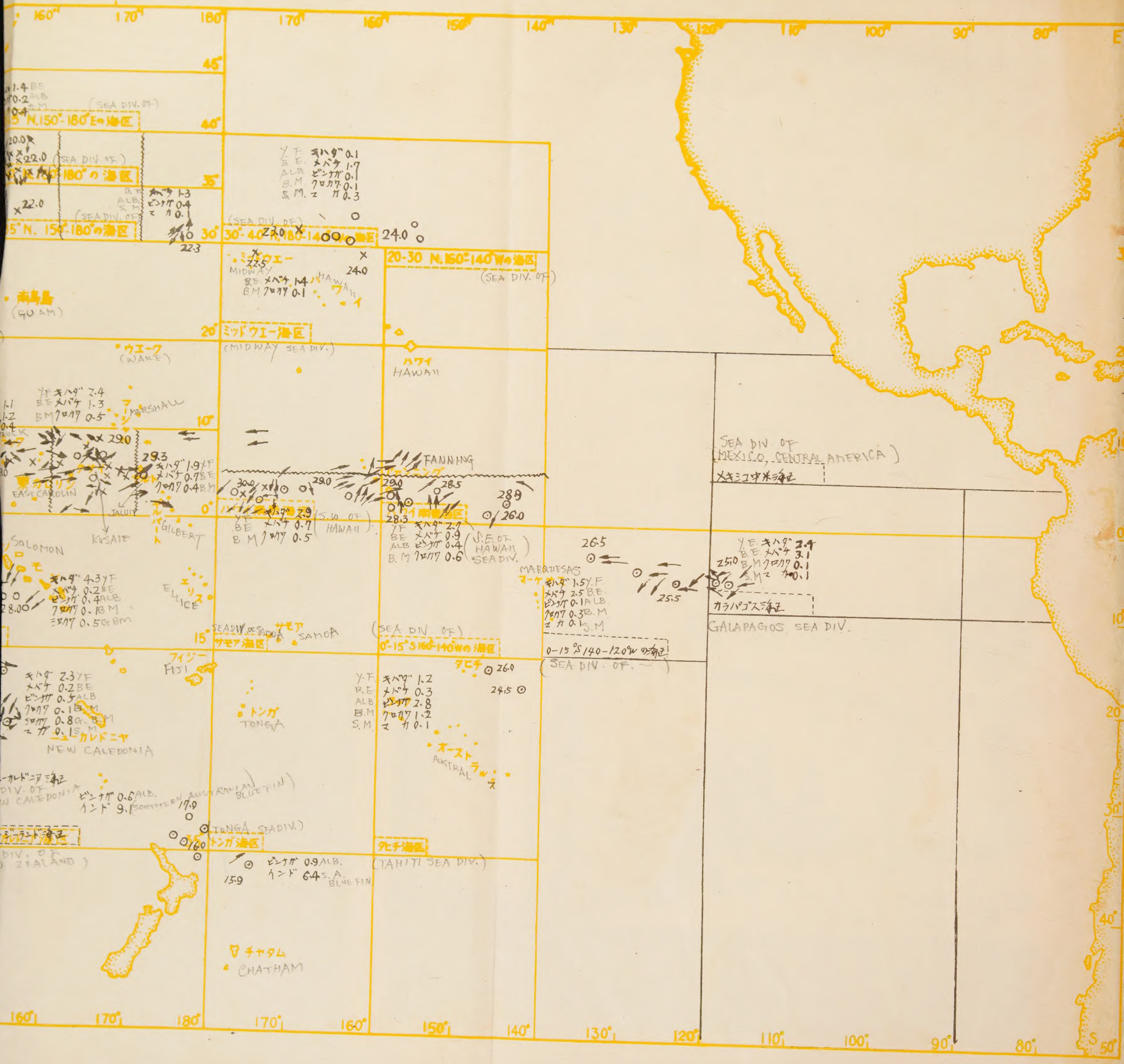


FIGURE OF TUNA FISHING GROUND
鮪漁場図
（32年10月操業）
1957. OCT. OPERATION
REMARKS 例
⊙ 200 ton 以上 ABOVE.
○ 100-200 ton
× 100 ton 以下 BELOW
魚種の後の数字は釣獲率を示す（FIGURE FOLLOWING SPECIES SHOWS THE CATCH RATE）
釣獲率＝漁獲尾数／鈎数 x 100
CATCH RATE = NO. OF FISH CAUGHT / NO. OF HOOKS ×100
← 表面海流 (SURFACE OCEAN CURRENT)
数字 表面水温 (FIGURE. SURFACE WATER TEMPERATURE)
YELLOW FIN — Y.F キハダ 4.1
BIG EYE TUNA — B.E メバチ 1.0
ALBACORE — ALB. ビンナガ 0.2
BLACK MARLIN — B.M. クロカワ 0.2
GIANT BLACK MARLIN — G. B M シロカワ 0.1
STRIPED MARLIN — S. M マカ 0.2
SWORD FISH — SW.F. メカ 0.1
28.4
アラビヤ海区
(ARABIAN SEA DIVISION)
セイロン海区
(CEYLON SEA.DIV.)
アンダマン ニコバル海区
(ANTIMAN NICHOBAR SEA DIV.)
スマトラ西洋沿海
(SMATRA WEST COAST SEA)
ジャワ沿海
(JAVA COAST SEA.)
バンダフロレス海区
(BANDA FLORES SEA DIV.)
小スンダチモール海区
(LESSOR SUNDA. TIMOR SEA DIV.)
西部印度洋
(WESTERN INDIAN OCEAN)
中部印度洋
(CENTRAL INDIAN OCEAN)
濠洲西方海区
(WEST AUSTRALIA SEA DIV.)
マダガスカル
MADAGASCAR
濠洲
AUSTRALIA
(SOUTH CHINA SEA)
南支那海
(TAIWAN EAST SEA)
台湾東海
フィリピン東海
(PHILLIPPINE EAST SEA)
スルー海
セレベス海
(CELEBES)
南海海区
(SOUTH SEA DIV.)
(EAST NORTH SEA DIV.)
東北海区
SEA DIV. OF E. OF IZU ISLANDS
伊豆諸島東方海区
メバチ 0.9
ビンナガ 0.5
メカ 0.4
キハダ 0.2
メバチ 0.2
クロカワ 0.1
小笠原
OGASAWARA
27.7
西部大平洋亜熱帯海区
(W. PACIFIC SUBTROPICAL SEA DIV.)
マリアナ
MALIANA
Y.F. キハダ 1.2
B.E. メバチ 1.6
B.M クロカワ 0.2
旧南洋庁沿海北部
FORMER MANDATE N. AREA.
YF キハダ
B.E メバチ
B.M クロカワ
29.5
パラオ
29.00
西カロリン
WEST CAROLINE
旧南洋庁沿海南部
(FORMER MANDATE S. AREA)
Y.F キハダ 3.5
BE メバチ 1.8
BM クロカワ 0.1
28.5
25.8
24.5
27.0
23.5
SEA
20°E 30° 40° 50° 60° 70° 80° 90° 100° 110° 120° 130° 140° 150°
40° 30° 20° 10° 0° 10° 20° 30° 40° 50°S
30° 40° 50° 60° 70° 80° 90° 100° 110° 120° 130° 140° 150°


160° 170° 180 170° 160° 150° 140° 130° 120° 110° 100° 90° 80°
45° 40° 35° 30 20° 10° 0° 15° 0 10 20 30° 40° 50°
1.4 BE
0.2 ALB
0.4 S.M
(SEA DIV. OF)
5°N. 150°-180°E の海区
20.0
22.0
(SEA DIV OF)
180° の海区
B.E メバチ 1.3
ALB ビンナガ 0.4
S.M マ カ 0.1
22.0
(SEA DIV. OF)
5°N. 150°-180°の海区
22.3
Y.F. キハダ 0.1
B.E. メバチ 1.7
ALB. ビンナガ 0.1
B.M. クロカワ 0.1
S.M. マ カ 0.3
(SEA DIV. OF)
30°-40°N. 180°-140°Wの海区
23.0
24.0
20-30 N. 160°-140°W の海区
(SEA DIV. OF)
ミッドウエー
MIDWAY
22.5
24.0
B.E. メバチ 1.4
B.M クロカワ 0.1
ハワイ
HAWAII
南鳥島
(GUAM)
ミッドウエー海区
(MIDWAY SEA DIV.)
ウエーク
(WAKE)
ハワイ
HAWAII
Y.F キハダ 2.4
B.E メバチ 1.3
B.M クロカワ 0.5
1.1
1.2
0.4
TRUCK
マーシャル
MARSHALL
29.0
29.3
キハダ 1.9 Y.F
メバチ 0.7 B.E
クロカワ 0.4 B.M
東カロリン
EAST CAROLIN
JALUIT
KUSAIE
ギルバート
GILBERT
30.0
29.0
29.0
28.5
28.9
26.0
28.3
FANNING
ファニング
ハワイ南海区
Y.F キハダ 2.9
B.E メバチ 0.7
B.M クロカワ 0.5
(S.W. OF HAWAII)
ハワイ南東海区
Y.F キハダ 2.7
B.E メバチ 0.9
ALB ビンナガ 0.4
B.M クロカワ 0.6
(S.E. OF HAWAII SEA DIV.
SOLOMON
ソロモン
キハダ 4.3 Y.F
メバチ 0.2 B.E
ビンナガ 0.4 ALB
クロカワ 0.1 B.M
シロカワ 0.5 G.B.M
28.0
エリス
ELLICE
SEADIV. OF SAMOA
サモア
SAMOA
サモア海区
(SEA DIV OF)
0°-15°S 160°-140°W の海区
26.5
MARQUESAS
マーケサス
キハダ 1.5 Y.F.
メバチ 2.5 B.E.
ビンナガ 0.1 ALB.
クロカワ 0.3 B.M
マ カ 0.1 S.M
25.5
0-15°S 140-120°W の海区
(SEA DIV. OF. ~)
SEA DIV. OF
(MEXICO, CENTRAL AMERICA)
メキシコ中米海区
25.0
Y.F. キハダ 2.4
B.E. メバチ 3.1
B.M クロカワ 0.1
S.M マ カ 0.1
ガラパゴス海区
GALAPAGOS SEA DIV.
フィジー
FIJI
キハダ 2.3 Y.F
メバチ 0.2 B.E
ビンナガ 0.5 ALB
クロカワ 0.1 B.M
シロカワ 0.8 G.B.M
マ カ 0.1 S.M
ニューカレドニヤ
NEW CALEDONIA
タヒチ
26.0
24.5
Y.F. キハダ 1.2
B.E メバチ 0.3
ALB ビンナガ 2.8
B.M クロカワ 1.2
S.M マ カ 0.1
トンガ
TONGA
オーストラル
AUSTRAL
ニューカレドニア海区
DIV. OF
W CALEDONIA
ビンナガ 0.6 ALB.
インド 9.1 (SOUTHERN AUSTRALIAN BLUEFIN)
17.9
(TONGA SEADIV.)
トンガ海区
16.0
ニュージーランド海区
DIV. OF
ZEALAND)
ビンナガ 0.9 ALB.
インド 6.4 S.A. BLUEFIN
15.9
タヒチ海区
(TAHITI SEA DIV.)
チャタム
CHATHAM
E
S

Consideration on deep sea tuna fishing mainly based on the landing investigation at Misaki & 2 other ports Oct. 1957.

Translation Attached

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和32年10月現況）

三崎　鮪漁業研究会　（調査研究部）
神奈川県水産試験場　（資源部鮪担當）
東京，燒津　南海区水産研究所　（遠洋資源部）

1 調査の概要

昭和32年10月分として調査した鮪延縄船数は85，そのうち三崎46，東京39，であり、体長測定船教は51，調査海区数は19で、9月よりやや減少した。

数

2 漁況の概要

（キハダ）

ガラパゴス海区は好漁期と思われ、0—15°S, 140—120°Wの海区は不漁期に入り、ハワイ南東海区5°N以南とハワイ南西海区5°N以南では、ともに9月より増加、タヒチ海区は9月より減少したが好漁、南洋南部では、160—170°Eの海域が好漁、170°E以東はやや好漁、130—140°Eおよび150—160°Eの海域は不漁である。ソロモン海区10—15°Sの海域では高率好漁、ニューカレドニア海区は9月から減少してやや不漁、バンダ海とアラビア海区では好漁、大西洋漁場象牙海岸西南海区は不漁となりつつある。

（メバチ）

ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区では好漁、30—40°N, 180—140°Wの海区およびミッドウエー海区ではまだやや低く、ハワイ南東海区5°N以南、ハワイ南西海区5°N以南の両海域は不漁、タヒチ海区は低率、35—40°N, 150°—180°Eの海区および30—35°N, 150°—180°Eの海区は好漁、西部太平洋亜熱帯海区は不漁、南洋南部130—14°E, 150—160°Eおよび160—170°Eの三海域は好漁であるが、170°—180°Eの海域は不漁、ニューカレドニア、ニュージーランドの両海区では低率である。バンダ・フロレス海区はやや好漁、アラビア海区は不漁となつた。大西洋象牙海岸西南海区は不漁であるが、漸増が見込まれる。

（ビンナガ、インドマグロ）

30—40°N, 180°—140°Wの海区は不漁、タヒチ海区北部は好漁、35—40°N, 150°—180°Eと30—35°N, 150°—180°Eの海区は好漁期前の不漁、西部太平洋140—150°Eの海域でもまだ低率である。ソロモン海区10—15°Sの海域、ニューカレドニア海区はともに不漁、ニュージーランド海区も低く、アラビア海区も不漁、大西洋漁場象牙海岸西南海区では、不漁からの上昇期にある。

インドマグロは、チャタム海区で高率、ニュージーランド海区においても、依然として好漁が続いている。

（クロカワ）

ハワイ南東およびハワイ南西両海区の5°N以南は好漁、タヒチ海区は上昇過程にあつて好漁である。南洋南部170°E—180°の海域は不漁となりつつあり、130—170°Eの海域は東部がやや好漁、アラビア海区は不漁となつた。大西洋象牙海岸西南海区のクロカワは、まだ不漁であるが増加しつつある。

（その他のカジキ類）

シロカワは、ニューカレドニア海区で好漁期に入り、マカジキは、太平洋北部でやや好漁である。

3 各海区の漁況

A. 赤道以南140°W以東漁場

（ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区）

7°S, 120°W附近の2隻および7°S, 120—125°W附近で操業した2隻、さらに6°S, 130°W附近を主漁場とした1隻が調査されている。7°S, 120°W附近は、ガラパゴス海区の西南部で、この海区は初めて調査されたものである。

ガラパゴス海区の海流は、おおむね西向きの弱流、0—15°S, 140—120°Wの海区では、南西から西え流れる微弱な海流が観測された。

（キハダ）

ガラパゴス海区のキハダは2.35でやや高率、0—15°S, 140—120°Eの海区では、低率期に入つて9月2.00から10月1.45と減少をみた。

0.—15°S, 140—120°Wの海区におけるキハダの体長組成は、131—140cmにモードがあつて、121—150cmの体長範囲のものが81.8%を点め、9月よりやや小型となつている。

（メバチ）

ガラパゴス海区では、3.06と高率、0—15°S, 140—120°Wの海区は、9月2.30より僅かに増加して10月2.48となり、冬の好漁期に向つて上昇過程にあるようである。

0—15°S, 140—120°Wの海区の魚体は、9月に比較して小型魚が多くなつて、小型が31.2%に達している。

（クロカワ）

ガラパゴス海区は0.12の低率で0—15°S, 140—120°Wの海区は0.26とやや高い。

0—15°S, 140—120°Wの海区におけるクロカワの体長組成は、151—160cmと181—190cmと201—210cmとにモードがあつて、従来とおおむね同形である。

B. 赤道以北180—140°W漁場

（30—40°N, 180—140°Wの海区、ハワイ南東海区
5°N以南、ミッドウエー海区、ハワイ南西海区5°N以南）

30—40°N, 180—140°Wの海区では、30°N線附近で177°Wから142°Wの範囲に操業

した8隻を調査し、ハワイ南東海区5°N以南の海域では、160°E附近で3隻、140—150°Eで2隻、150—170°Eで1隻、計6隻が調査された。また、ミッドウエー海区では北部の30°N線附近で2隻、ハワイ南西海区5°N以南の海域においては、170—180°Wで5隻、そのうち2隻は175—180°Wで操業しており、160—170°Wでも2隻が調査されている。海流は漁場圖參照のこと。

（キハダ）

ハワイ南東海区5°N以南のキハダは、9月低下期に入つて低減し、10月も低減を続けると思われたが、9月1.94から10月2.72と上昇、南西海区5°N以南も、9月2.44の釣獲率から10月2.95と増加した。

体長組成は、南東海区5°N以南では、9月121—130cmにあつたモードが131—140cmにうつり、南西海区では9月と同形である。

（メバチ）

30—40°N, 180—140°Wの海区では、8月の低率1.34から次第に増加して10月1.68となり、冬の好漁期に向うようである。ハワイ南東海区5°N以南のメバチは、8月から増加して9月は1.83であつたが、10月は減少して0.87となつた。南西海区5°N以南でも9月1.03より10月0.69に減少、キハダとは逆の傾向を示している。ミッドウエー海区は8月と同率1.35でやや高率である。」

体長組成は、30—40°N, 180—140°Wの海区では、9月よりさらに小型となつて121—130cmに組成の山があり、161—170cmに第2の山があつて、ハワイ南東海区5°N以南も同様の組成である。ハワイ南西海区5°N以南は、南東海区より小型で、111—130cmの小型魚が、49.4%に達している。」

（ビンナガ）

30—40°N, 180—140°Wの海区の160°W以西で操業した5隻のビンナガ釣獲率は0.12で、海区平均は0.08を示し、29年秋季のような好漁は次第にみられなくなつたが、漸次上昇するであろう。ハワイ南東海区の0—2N, 151—145°Wの海域における調査船1隻は、1.73の釣獲率を得ており、この海区としては高率で、海区平均は0.38, ミッドウエー海区は0.03でまだ極めて低く、ハワイ南西海区5°N以南も0.04と夏季からの低率が続いている。」

30—40°N, 180—140°Wの海区のビンナガは大型で、ハワイ南東および南西海区5°N以南のビンナガは、81—110cmの体長範圍のもで、91—100cmにモードがあつて9月と同様の傾向である。

（クロカワ、マカジキ）

ハワイ南東、ハワイ南西両海区5°N以南の海域は、高率期に入つてそれぞれ0.55, 0.52を示し好漁である。

体長組成は、南東海区5°N以南では161—170cmにモードがあつて9月と同形、南西海区5°N以南では、9月161—170cmにあつたモードが、151—160cmにうつつてやや小型になつている。

30—40°N, 180—140°Wの海区のマカジキは好漁期であるが、8月0.34から9月0.25と低下し、10月はさらにやや減じて平均0.20を示し、180—150°Wの海域では0.32であつた。体長組成をみると、131—140cmの山は変らないが、171—180cmのものが増加して30.3%に達し、大中型魚が増えている。

C. 赤道以南180—140°W漁場

（タヒチ海区、チヤタム海区）

「タヒチ海区では、9月と同様に北東部で2隻が調査されている。また、チヤタム海区では、ニユージーランド島近海の海区北西部で操業した1隻を調査した。チヤタム海区は、10月に初めて調査されたもので、調査海域における海流は、おおむね北東流である。」

（キハダ）

タヒチ海区のキハダは、9月1.61と高率を示し、10月は1.08とやや減少したがなお好漁である。チヤタム海区では、全く漁獲されていない。

9月と同じくタヒチ海区の魚体は大型で、大型魚が83.8%を占めている。

（メバチ）

タヒチ海区は0.27で低率であるが、調査船2隻のうち、18—20°S, 145—139°Wの海域で操業した1隻は、0.36とやや高率を得ている。チヤタム海区は、メバチも不漁で0.01と極めて低い。

タヒチ海区におけるメバチには、110cm以下の若年魚がみられず、131—150cmの中型が50%、151cm以上の大型魚が30.0%で、従来と同様に大型の傾向を示している。

（ビンナガ）

ビンナガは、タヒチ海区において好漁期に入つて2.85の高率、この好漁は2—3ヶ月続くものと思われる。18—20°S, 145—139°Wの海域の1隻は、ビンナガについても他の1隻より高率を得ており、釣獲率3.29であつた。チヤタム海区北西部においては、0.92でやや好漁、冬季には上昇がみこまれる。

体長組成は、タヒチ海区では、91—100cmの中型が55.6%、101—110cmの大型が44.4%であつた。

（インドマグロ）

チヤタム海区北西部ではインドマグロの好漁あり、6.44の高率が得られている。魚体は、141—150cmにモードがあつて、ニユージーランド海区より大型である。

（クロカワ）

タヒチ海区のクロカワは、高率期となつて10月は1.16を示し、9月0.54より倍増した。9月は171—180cmと191—200cmとに山があつたが、10月は181—190cmにうつり、中型魚が65.3%を占めて大型小型は少く、従来と同様の傾向である。

D. 北部太平洋漁場

（35-40°N, 150-180°Eの海区、30-35°N, 150-180°Eの海区、西部太平洋亜熱帯海区）

35—40°N, 150—180°Eの海区では、150—160°Eの海域で11隻を調査し、30—35°N

150—180°E の海区では、150—160°E の海域で1隻、30°N線附近、175°E—178°Wの海域で1隻がそれぞれ調査され、また、西部太平洋亜熱帯海区では、22—26°N, 142—146°Eの海域の1隻を調査した。海流は漁場圖參照のこと。

(キハダ)

35—40°N, 150—180°Eの海区および30—35°N, 150—180Eの海区におけるキハダは周年低率、10月もそれぞれ0.04を示して極めて低い。西部太平洋 140—150°Eの海域では、9月0.75から10月0.16と減少した。

35—40°N, 150—180°Eの海区および30—35°N, 150—180°E の海区のキハダは大型のようで、141cm以上の大型魚が、両海区とも約50%に及んでいる。西部太平洋では中型、小型魚が多い。

(メバチ)

35—40°N, 150—160°Eの海域ではメバチが高率を示し、9月0.92より上昇して1.35となり、30—35°N, 150—180°Eの海区も好漁、150—160°Eの海域は0.86, 170—180°Eの海域は1.25と高い。西部太平洋亜熱帯海区140—150°Eの海域では、依然として不漁0.15の低率で9月0.30より減少し、昨年10月の高率は得られない。

体長組成は、35—40°N, 150—160°Eの海域では變化なく、30—35°N, 150—180°Eの海区では、9月121—130cmにあつた第1の山が、111—120cmにうつり、小型魚が増加している。

(ビンナガ)

35—40°N, 150—160°Eの海域および30—35°N, 150—180°E の海区は、ビンナガ次第に増加しつつあり、前者は0.18, 後者は0.41となつた。今後、冬季に向つて上昇が見込まれる。西部太平洋亜熱帯海区 140—150°Eの海域では漁獲皆無であつた。

体長組成は、両海区とも9月と同形であるが、ともに111—120cm の大型魚が増加している。

(クロカワ)

西部太平洋140—150°Eの海域のクロカワはいちじるしく低率で10月0.07, 來年初夏まで高率はのぞめないと思われる。他の海区では、マカジキが好漁であり、35—40°N 150—160°Eの海域では0.37, 30—35°N, 150—160°E の海域では 0.42と高い。

35—40°N, 150—180°Eの海区と30—35°N, 150—180°Eの海区におけるマカジキの体長組成は、151—160cmにモードがあつて中型が多く、9月と同じ傾向を示している。

E. 旧南洋庁沿海漁場

(旧南洋庁沿海南部)

旧南洋庁沿海南部では、3—9°N, 133—143°E で3隻、4—8°N, 150—161°E で2隻 0—10°N, 159—173°Eで12隻、さらに170°E以東の海域では、3—8°Nの170°E線附近で1隻、計18隻が調査されている。170°E以東の体長組成は調査できなかつた。

(キハダ)

130—140°Eの海域におけるキハダは、9月1.97よりさらに減少して10月は1.15とな

り、この海域としては非常に不漁、150—160°Eでも9月2.28から10月1.07と低減して極めて不漁、160—170°Eの海域では、2.37を示し、170°—180°Eにおいては1.87で、ともに9月とほぼ同様である。表1に示したように、5°N以南は5°N以北よりも高率で従来と同じ傾向であり、150–160°Eの海域のみが低くなつているが、これは同海域5°N以南における調査船が1隻であつたため、信頼できる値が得られなかつたものと思われる。

表 1. 舊南洋廳沿海南部におけるキハダの漁況

	130°—140°E	150°—160°E	160°—170°E	170°—180°E
5°N以北	1.02	1.06	1.15	0.25
5°N以南	1.19	0.53	2.90	1.83

170°E以西の体長組成は、中型と小型にそれぞれモードがあつて9月と同形である。

（メ　バ　チ）

9月と同じく、西部海域が東部より高率であるが、160—170°E以外の海域はそれぞれ9月より減少している。

130—140°Eの海域は、9月2.15の好漁から10月は1.57と低下し、150—160°Eの海域においても9月1.87より10月1.23と低下している。160—170°Eでは、9月1.03から10月1.34とやや増加、170°—180°Eの海域では、9月1.09から10月0.69と激減した。この海区170°E以西における10月のメバチは、5°N線以北が以南より高率を示している。（表2参照）

表 2. 舊南洋廳沿海南部におけるメバチの漁況

	130°—140°E	150°—160°E	160°—170°E	170°—180°E
5°N以北	1.95	1.11	1.29	0.05
5°N以南	0.88	0.98	0.73	0.52

体長組成は、モードが111—120cmにうつつて小型魚が増え、9月に比較すると、若年魚の減少がめだつている。

（ク　ロ　カ　ワ）

この海区のクロカワは、170°E以西の海域においては西寄りに不漁で9月と同様であり、9月0.30が10月0.43となり、170°E以東の海域では9月0.41から10月0.36と僅か減少、次第に低率期に向つて低減過程に入るものと思われる。

体長組成をみると、9月141—150cmおよび161—170cmにあつたモードは変らないが、191—200cmにあつた第3の山がみられず、中型魚が減じ小型魚が増えている。

表 3. 舊南洋廳沿海南部におけるクロカワの漁況

	130°—140°E	150°—160°E	160°—170°E	170°—180°E
5°N以北	0.15	0.38	0.49	0.45
5°N以南	0.21	0.15	0.26	0.31

F. ソロモン以南漁場

（ソロモン海区、ニューカレドニア海区、ニュージーランド海区）

ソロモン海区では、ソロモン群島南方の珊瑚海北部で2隻、オーストラリアのヨーク半島東岸、ニューギニア南方で10隻ともに10—15°Sの海域で計12隻が調査されている。ニューカレドニア海区においては、オーストラリア東岸の珊瑚海で8隻ニュージーランド海区においては、8, 9月と同様にノース•アイランド北方の海域で5隻を調査した。

(キハダ)

ソロモン海区10—15°S西寄りの海域においてはキハダの高率4.31が得られ、10—12°S, 144—145°E附近で操業した1隻は、7.66の高率であるがこれは特異なもので、東方のソロモン南部の2隻は3.76と低率である。

ニューカレドニア海区北西部では2.30の好漁であるが、9月の南西部における4.50から半減している。

ニュージーランド海区ではキハダの漁獲がなかつた。

体長組成は、ソロモン海区南西部では小型魚および若年魚が多く、組成の山は111—120cmにあつて28.4%, 120cm以下の小型若年魚は43.2%を占めている。ニューカレドニア海区では、ソロモン海区と同じく111—120cmに山があり、さらに131—140cmにも第2の山があつて、ソロモン海区より型が大きい。

(メバチ)

ソロモン海区南西部のメバチは海区平均0.17と低調であるが、珊瑚海北部の2隻は0.26とやや高い。ニューカレドニア海区北西部珊瑚海附近でも0.15の低率を示し、ニュージーランド海区のノース•アイランド近海では、9月の貧漁0.08からさらに10月0.03と低減して全くの不漁である。

体長組成は、ソロモン•ニューカレドニア両海区ほぼ同様で、ともに111—200cmおよび131—140cmに山がみられる。

(ビンナガ)

ソロモン海区のビンナガは、南西部で0.41, 珊瑚海北部で0.19と低く不漁、ニューカレドニア海区北西部では0.62とやや高く、9月の南西部における3.38にくらべていちじるしい減少で不漁期である。来春まで比較的低率が続くであろう。ニュージーランド海区では、9月よりやや上昇して10月は0.55を示した。冬季にはさらに増加するものと思われる。

ソロモン海区における体長組成は、91—100cmに山があつて変化なく、ニューカレドニア海区の9月のビンナガは、やや小型が多かつたが、10月は91—100cmが増えて81—100cmの中型魚が93.1%に達している。昨年同期に比較すると小型若年魚が増加している。

(インドマグロ)

ニュージーランド海区のノース•アイランド北方では8月以來インドマグロの好漁が続いていて、10.70の高率を得ている船もあり、10月の海区平均は9.08で依然として高率であるが9月9.88より減少、11月から低減過程に入るであろう。9月のインドマグロは南寄りに高率であつたが、10月は9月と逆に北方海域が高くなつている。

体長組成は9月と同形である。

(クロカワ、シロカワ、マカジキ)

各海区ともクロカワは不漁、シロカワはニューカレドニア海区で好漁期を迎え、9月0.01の低率から10月0.81と上昇をみせている。11月はさらに増加がみこまれる。同海

区のマカジキは、好漁期であるが、0.08で極めて不漁である。

ソロモンおよびニユーカレドニア海区のシロカワの体長組成は、前者は171—180cmに後者は181—190cmに山があり、おおむね変化ない。ニユーカレドニア海区のマカジキの体長組成は9月と同形であつた。

G. 東部印度洋漁場

（バンダ・フロレス海区）

この漁場における10月の調査船はバンダ・フロレス海区のセレベス、ブル両島中間海域で操業した1隻にとどまつた。体長組成は調査されていない。

（キハダ）

バンダ・フロレス海区のキハダは、夏季の低率から激増して3.45と高率を示し昨年と同傾向である。

（メバチ）

昨年は3月から6月にかけて急増をみて11月に低率となつたが、本年4,5月は0.90と昨年に比して不漁、10月は1.83とやや高率、この率は冬季となるに従つて低下するであろう。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワは0.04, シロカワは0.05ともに低率で、マカジキ、メカジキも不漁である。

H. 西部印度洋漁場

（アラビヤ海区）

アラビヤ海区では、8月以來の漁場マルデイブ諸島西方の2—6°N, 65—71°Eで1隻が調査されている。

（キハダ）

この海区のキハダは7月の低率1.24から次第に増加していて、從來と異なつた傾向を示しているが、10月は4.05の高率となり好漁である。

体長組成は中型が多く、131—140cmに山があつて44.0%, 121—140cmの中型は63.3%を占めている。

（メバチ）

9月2.19の好漁から低下して10月は0.99で、7月1.74, 8月1.52よりも低率となつた11月からは低率期に入るであろう。

（ビンナガ）

アラビヤ海区のビンナガは低率期で、9月0.03よりも10月は上昇したが0.15と低くこの低率は来年春季まで続くと思われる。

（クロカワ）

クロカワは7月0.85から8月0.54, 9月0.44と減少、10月は0.19となつて不漁期に入つた。ビンナガと同じく来年春季まで低率が続くであろう。

クロカワの体長測定尾数は少数であつたが、組成は中型小型が多い。

I. 大西洋漁場

（象牙海岸西南海区）

10月の大西洋漁場では、象牙海岸西南海区の 2—4°N, 27—17°W の海域で 2 隻が調査された。そのうちの 1 隻は、3°N—3°30′N, 18—19°W と 26°W 附近で操業している 18—19°W では WNW, 26°W 附近では SW 方向へ流れる微弱な南赤道流を観測した。体長組成は調査されていない。

（キ　ハ　ダ）

20—30°W の南赤道流域におけるキハダは、夏季の盛漁期を過ぎて秋季より低減過程にあるようで、この海域の 8 月のキハダは8.0 の高率であつたが、10月は5.38と低下した。冬季に入るに從つて低下を続けるであろう。

（メ　バ　チ）

メバチは、初夏の低率から僅かづつ恢復上昇して、10月は0.26を示し、さらに増加すると思われる。

（ビンナガ、クロマグロ）

ビンナガの海区平均釣獲率は1.18で低いが、夏季より増加している。また、18—19°W の海域と26°W附近の釣獲率を比較すると、それぞれ2.34, 9.45 で西方の漁場が高率であつた。

クロマグロは平均 0.03 の低率であるが、3°N—3°30′N, 26°W の海域では 0.38 と高い。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは夏季の不漁から恢復中、0.49 でまだ低率である。2—4°N, 26—17°W の海域では0.68と高く、2—4°N, 27—23°W では0.32を示してやや低率である。

南赤道流域のマカジキは初夏以來低率が続いているが、2—4°N, 26—17°W の 1 隻は 0.22 とやや高率を得ている。海区平均は 0.10, 漸次増加が見込まれる。

Table of Investigations on Tuna Catch

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

NO. OF OPERATION

漁場	操業区域	調査隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
ガラパゴス	5— 8S 123—117W	2	24.5 25.7	W, 0.3, 0,4	35	13,902	55,608	尾数 %	1308 2.35	1699 3.06
0— 15S 140—120W	0— 8S 139—120W	3	24.5 7.0	W, SW 0:3, 0.7	86	30,347	131,313		1906 1.45	3252 2.48
30— 40N 180—140W	28— 33N 177—142W	8	20.0 5.8	NW 0.4, 0,5	193	71,012	286,368		138 0.05	4810 1.68
ハワイ南東 (5°N 以南)	0— 6N 167—139W	6	25.1 9.4	NE—NW 0.4 1.5 SSW, 0.4	115	45,613	195,486		5319 2.72	1693 0.87
ミッドウエー	28— 31N 180—160W	2	21.2 4.9		47	16,440	65,760		8 0.01	889 1.35
ハワイ南西 (5° N以南)	1— 6N 180—158W	7	28.3 30.4	SW, 0.5—1,3 S—E 0.2—0.8	133	46,783	229,344		6776 2.95	1572 0.69
タヒチ	15— 20S 151—139W	2	24.0 6.9		59	23,125	108,825		1173 1.08	291 0.27
チヤタム	35— 38S 180—170W	1	14.9 16.9	NE 0.2, 0.8	29	11,399	51,245			3 0.01
35— 40N 150—180E	34— 39N 150—160E	11	19.8 24.4	NNE-NW, 0.5 S—ESE, 0.5	180	44,684	180,762		78 0.04	2439 1.35
30— 35N 150—180E	29— 36N 152E—178W	2	21.4 3.9		48	15,580	63,400		28 0.04	675 1.06
西部太平洋	22— 26N 142—146E	1	26.7 8.7	W, 0.5, 1.0	10	2,021	8,084		13 0.16	12 0.15
南洋南部 (170°E以東)	3— 8N 166—172E	1	28.8 9.8	ENE 0.7, 1.5	27	10,800	54,000		1011 1.87	371 0.69
南洋南部 (170°E以西)	0— 10N 133—173E	17	27.7 30.4	E 0.7, 1.0	333	11,528	407,466		8104 1.99	5514 1.35
ソロモン	7— 15S 143—162E	12	24.8 29.3	NW/W—S 0.3—1.0	262	99,384	431,226		18576 4.31	738 0.17
ニューカレドニア	11— 28S 145—157E	8	20.5 27.5	SE—E, 0.8-2.0 E-NNW1.0-1.8	201	74,290	351,686		8076 2.30	538 0.15
ニュージーランド	31— 39S 171E—179W	5	14.8 7.7		94	37,114	155,506			52 0.03
バンダ	3— 7S 122—126E	1	27.0 30.1		12	4,321	21,605		746 3.45	395 1.83
アラビア	2— 6N 65— 71E	1	28.1 .7	NE 0.4, 0.8	32	9,680	56,320		2280 4.05	558 0.99
象牙海岸西南	2— 4N 27— 17W	2	26.3 7.7	W 0.3, 0.4	30	10,670	47,800		2571 5.38	122 0.26
合計	19	92			1926	578,693	2,901,804		58111 2.00	25623 0.88

by Month and by Fis

(昭和32年10月操業分)

TUNAS まぐろ			SPEARFISH かじき					BONITO かつお	MISCE- 雑	SHARKS さめ	TOTAL 計	DESCRIPTION 記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
			69 0.12	25 0.04	29 0.05	17 0.03		138 0.25	208 0.37	45 0.08	3538 6.36	鮫未調査隻数 1 体長測定隻数 0
63 0.05			342 0.26	55 0.04	92 0.07	37 0.03	11 0.01	248 0.19	200 0.15	188 0.14	6394 4.87	1 2
216 0.08			253 0.09	7	572 0.20	69 0.02			324 0.11	446 0.16	6835 2.39	1 2
743 0.38			1072 0.55	38 0.02	51 0.03	34 0.02	31 0.02	166 0.08	35 0.02	193 0.10	9375 4.80	3 3
20 0.03			39 0.06	1	26 0.04	11 0.02			36 0.05	27 0.04	1057 1.61	1 0
95 0.04			1182 0.52	49 0.02	12 0.01	27 0.01	73 0.03	15 0.01	275 0.12	101 0.04	10177 4.44	4 3
3105 2.85			1260 1.16	20 0.02	109 0.10	9 0.01					5967 5.48	2 2
469 0.92		3298 6.44				3 0.01					3773 7.36	0 1
329 0.18	4		68 0.04	5	667 0.37	51 0.03	1		83 0.05	1480 0.82	5205 2.88	0 6
260 0.41			18 0.03	1	143 0.23	13 0.02				279 0.44	1417 2.24	0 2
			6 0.07		3 0.04	2 0.02	2 0.02		11 0.14	180 2.23	229 2.83	
13 0.02	1		194 0.36	2	1	3 0.01	18 0.03		13 0.02		1627 3.01	1 0
41 0.01			1759 0.43	25 0.01	18	46 0.01	203 0.05	26 0.01	238 0.06	375 0.09	16349 4.01	6 11
1633 0.38			592 0.14	2246 0.52	28 0.01	45 0.01	200 0.05	18	166 0.04	379 0.09	24618 5.71	9 9
2167 0.62			239 0.07	2856 0.81	296 0.08	96 0.03	92 0.03	13	615 0.17	400 0.11	15388 4.38	2 7
858 0.55	1	14118 9.08	13 0.01	2	14 0.01	2			160 0.10		15220 9.79	5 2
			9 0.04	10 0.05		5 0.02	16 0.07				1181 5.47	1 0
86 0.15			106 0.19	32 0.06	106 0.19	60 0.11	38 0.07			67 0.12	3333 5.92	0 1
562 1.18	15 0.03		233 0.49		49 0.10	15 0.03					3567 7.46	2 0
10660 0.37	21	17416 0.60	7454 0.26	5374 0.19	2216 0.08	545 0.02	685 0.02	624 0.02	2364 0.08	4157 0.14	135250 4.66	39 51

Table of Length Frequency [illegible] Operations, Oct 1957

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年10月操業分）

（別表 2）
(ATTACHED TABLE 2)

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm以上	計	漁獲尾数
きはだ	2	0—15S 140—120W	0—8S 139—124W	69	尾数 %							4 1.6	27 10.9	65 26.2	71 28.6	67 27.0	14 5.6			248 100	1530
	2	30—40N 180—140W	30—33N 177—151W	53									3 25.0	1 8.3	3 25.0	5 41.7				12 100	12
	3	ハワイ南東 （5°N以南）	0—6N 166—145W	60							2 0.3	27 4.3	84 13.2	161 25.4	212 33.4	121 19.1	21 3.3	6 0.9		634 100	2602
	3	ハワイ南西 （5°N以南）	2—6N 180—160W	63							13 1.3	160 16.3	239 24.3	412 42.0	146 14.9	10 1.0	2 0.2			982 100	3321
	2	タヒチ	15—20S 151—139W	59								1 0.3	2 0.7	6 2.0	27 9.2	137 46.6	99 33.7	13 4.4	9 3.1	294 100	1173
	4	35—40N 150—180E	35—39N 150—159E	65									3 16.7	2 11.1	3 16.7	8 44.4	2 11.1			18 100	22
	2	30—35N 150—180E	29—36N 152E—178W	48									2 11.8	3 17.6	4 23.5	6 35.3	2 11.6			17 100	28
	11	南洋南部 （170°E以西）	3—10N 133—173E	236					2 0.1	15 1.0	21 1.3	432 27.7	356 22.8	516 33.0	192 12.3	27 1.7	1 0.1			1562 100	6005
	8	ソロモン	8—15S 144—162E	167					4 0.2	2 0.1	14 0·6	305 13.9	626 28.4	483 21.9	374 17.0	334 15.2	54 2.5	5 0.2		2201 100	13392
	7	ニューカレドニア	11—27S 145—155E	187				1 0.1	4 0.4		2 0.2	177 7.0	389 37.3	142 13.6	217 20.8	94 9.0	14 1.3	2 0.2		1042 100	7447
	1	アラビア	2—6N 65—71E	32						1 0.6	18 10.8	14 8.4	10 6.0	32 19.3	73 44.0	18 10.8				166 100	2280

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾数
めばち	2	0—15S 140—120W	0—8S 139—124W	69	尾數 %			1 0.3	4 1.3	2 0.6	12 3.8	61 19.2	38 12.0	44 13.9	13 4.1	32 10.1	50 15.8	32 10.1	28 8.8	317 100	2564
	2	30—40N 180—140W	30—33N 177—151W	53					1 0.4	3 1.2	2 0.8	12 5.0	74 30.6	56 23.1	28 11.6	19 7.9	29 12.0	12 5.0	6 2.5	242 100	1308

	3	ハワイ南東 (5°N以南)	0— 6N 166—145W	60				2 1.0	4 2.1	1 0.5	16 8.3	31 16.1	36 18.7	25 13.0	19 9.9	23 12.0	25 13.0	8 4.2	2 1.0	192 100	850
ば	3	ハワイ南西 (5°N以南)	2— 6N 180—160W	63					4 1.1	7 1.9	67 17.8	90 23.9	96 25.5	48 12.8	30 8.0	21 5.6	10 2.7	3 0.8		376 100	993
	2	TAHITI タ ヒ チ	15— 20S 151—139W	59								12 13.3	6 6.7	29 32.2	16 17.8	17 18.9	8 8.9	2 2.2		90 100	291
EYE TUNA	6	35— 40N 150—180E	35— 39N 150—159E	99							9 2.4	85 22.6	84 22.3	93 24.7	27 7.2	37 9.8	26 6.9	6 1.6	9 2.4	376 100	1182
	2	30— 35N 150—180E	29— 36N 152E—178W	48						1 0.8	3 2.4	36 28.6	28 22.2	23 18.3	6 4.8	20 15.9	6 4.8	2 1.6	1 0.8	126 100	675
ち	11	南洋南部 (170°E以西)	3— 10N 133—173E	236			5 0.4	5 0.4	48 3.7	48 3.7	274 20.9	397 30.3	220 16.8	175 13.3	98 7.5	25 1.9	12 0.9	3 0.2	1 0.1	1311 100	3338
	5	SOLOMON ソロモン	8— 15S 144—162E	101							26 18.7	48 34.5	15 10.8	26 18.7	15 10.8	3 2.2		2 1.4	4 2.9	139 100	296
	7	NEW CALEDONIA ニューカレドニア	11— 27S 145—155E	187						5 4.1	15 12.3	32 26.2	12 9.8	17 13.9	14 11.5	16 13.1	9 7.4	2 1.6		122 100	494

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數		40 cm以下 BELOW	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上 ABOVE					計	漁獲尾数
	1	0— 15S 140—120W	0— 8S 139—130W	37	尾數 %					1 10.0	4 40.0	5 50.0								10 100	63
び	2	30— 40N 180—140W	30— 33N 177—151W	53									6 54.5	1 9.1	4 36.4					11 100	11
	2	ハワイ南東 (5°N以南)	0— 6N 166—145W	43							7 12.5	36 64.3	13 23.2							56 100	692
	2	ハワイ南西 (5°N以南)	2— 6N 177—160W	42							2 20.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0						10 100	10
ん	2	TAHITI タ ヒ チ	15— 20S 151—139W	59								80 55.6	64 44.4							144 100	3105
	5	35— 40N 150—180E	35— 39N 150—159E	83							10 18.9	35 66.0	6 11.3	2 3.8						53 100	195
な	2	30— 35N 150—180E	29— 36N 152E—178W	48							4 8.5	30 63.8	3 6.4	10 21.3						47 100	260
	1	南洋南部 (170°E以西)	4— 9N 159—163E	22								2 100.0								2 100	2

が	4	SOLOMON ソロモン	9—15S 144—154E	80							30 27.5	78 71.6	1 0.9							109 100	478
	3	NEW ニューカレドニア	15—22S 145—155E	68					1 1.6	3 4.8	34 54.0	24 38.1	1 1.6							63 100	815

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		120 cm以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	240 cm以上	計	漁獲尾数
印度鮪	1	チヤタム	35—38S 180—170W	29	尾数 %	8 4.5	23 13.1	44 25.0	86 48.9	14 8.8		1 0.6								176 100	3298
	2	NEW ZEALAND ニュージーランド	31—39S 176E—179W	33		241 51.8	84 18.1	93 20.0	41 8.8	6 1.3										465 100	5094

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾数
くろかわ	2	0—15S 140—120W	0—8S 139—124W	69	尾数 %	1 1.1	2 2.1	7 7.4	10 10.6	5 5.3	4 4.3	15 16.0	11 11.7	16 17.0	7 7.4	5 5.3	1 1.1	1 1.1	2 2.1	7 7.4	94 100	289
	2	30—40N 180—140W	30—33N 177—151W	53		1 1.4				2 2.7		3 4.1	8 10.8	18 24.3	14 18.9	11 14.9	6 8.1	4 5.4	3 4.1	4 5.4	74 100	89
	3	ハワイ南東 (5°N以南)	0—6N 166—145W	60			1 0.5	9 4.9	9 4.9	47 25.8	29 15.9	34 18.7	12 6.6	8 4.4	6 3.3	6 3.3	8 4.4	7 3.8	3 1.6	3 1.6	182 100	795
	3	ハワイ南西 (5°N以南)	2—6N 180—160W	63		3 2.1	15 10.5	22 15.4	32 22.4	26 18.2	7 4.9	6 4.2	10 7.0	11 7.7	6 4.2	2 1.4	1 0.7	1 0.7	1 0.7		143 100	559
	2	タヒチ	15—20S 151—139E	59				1 0.2	3 0.7	27 6.5	65 15.6	110 26.4	97 23.3	35 8.4	8 1.9	18 4.3	15 3.6	12 2.9	9 2.2	16 3.8	416 100	1260
	4	35—40N 150—180E	35—38N 150—159E	69							4 15.4	3 11.5	9 34.6	4 15.4	4 15.4	1 3.8				1 3.8	26 100	28
	2	30—35N 150—180E	29—36N 152E—178W	48			1 11.1					1 11.1		3 33.3	2 22.2		1 11.1		1 11.1		9 100	18
	10	南洋南部 (170°E以西)	3—10N 133—173E	214		18 3.2	50 8.9	117 20.9	105 18.9	121 21.6	36 6.4	24 4.3	35 6.3	23 4.1	12 2.1	8 1.4	4 0.7	2 0.4	1 0.2	3 0.5	559 100	1203
	8	ソロモン	8—15S 144—162E	170		2 0.8	6 2.4	36 14.4	25 10.0	43 17.2	18 7.2	20 8.0	20 8.0	21 8.4	19 7.6	12 4.8	3 1.2	6 2.4	3 1.2	16 6.4	250 100	429
	5	NEW ニューカレドニア	11—27S 146—155E	135		1 2.0	1 2.0	1 2.0	5 10.2	5 10.2	7 14.3	4 8.2	11 22.4	6 12.2	3 6.1	2 4.1	1 2.0		2 4.1		49 100	212
	1	ニュージーランド	36—39S 178E—179W	19						2 15.4		1 7.7	3 23.1			4 30.8	1 7.7	1 7.7		1 7.7	13 100	13

	1	アラビア	2—6N 65—71E	32				1 2.9	10 29.4	5 14.7	10 29.4	4 11.8		1 2.9	1 2.9	1 2.9			1 2.9	34 100	106

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
しろかわ	2	0—15S 140—120W	0—8S 139—124W	69	(BELOW)							2 28.6				3 42.9		1 14.3	1 14.3	7 100	25
	1	30—40N 180—140W	30—32N 177—162W	24					1 50.0	1 50.0										2 100	2
	3	ハワイ南東 (5°N 以南)	0—6N 166—145W	60								2 40.0	1 20.0					1 20.0	1 20.0	5 100	15
	1	ハワイ南西 (5°N 以南)	2—5N 177—170W	22								1 100.0								1 100	1
	2	タヒチ	15—20S 151—139W	59				1 10.0				4 40.0	1 10.0	1 10.0			1 10.0		2 20.0	10 100	20
	2	35—40N 150—180E	35—38N 150—159E	35				1 33.3		1 33.3		1 33.3								3 100	3
	1	30—35N 150—180E	33—35N 150—180E	24					1 100.0											1 100	1
	3	南洋南部 (170°E以西)	3—8N 138—173E	62			1 25.0			1 25.0		1 25.0						1 25.0		4 100	8
	8	ソロモン	8—15S 144—162E	170			6 1.4	43 10.3	40 9.6	73 17.5	71 17.0	39 9.4	30 7.2	27 6.5	13 3.1	19 4.6	10 2.4	17 4.1	29 7.0	407 100	1677
	6	ニューカレドニア	11—27S 146—155E	165		2 0.4	9 1.8	38 7.4	57 11.1	70 13.6	81 15.8	63 12.3	43 8.4	31 6.0	32 6.2	21 4.1	9 1.8	19 3.7	39 7.6	514 100	2173
	1	ニュージーランド NEW ZEALAND	36—39S 178—179W	19											1 50.0				1 50.0	2 100	2
	1	アラビア	2—6N 65—71E	32						1 11.1		2 22.2		1 11.1	2 22.2		2 22.2		1 11.1	9 100	32

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
ま	2	0—15S 140—120W	0—8S 139—124W	69										3 27.3	3 27.3	3 27.3	2 18.2			11 100	78
	2	30—40N 180—140W	30—33N 177—151W	53				3 2.1	38 26.2	18 12.4	14 9.7		44 30.3	27 18.6	1 0.7					145 100	264

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		80 cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm以上	計	漁獲尾数
かじき	3	ハワイ南東 (5°N以南)	0— 6N 166—145W	60					1 10.0		1 10.0		1 10.0		3 30.0	2 20.0	1 10.0		1 10.0	10 100	33
	2	ハワイ南西 (5°N以南)	2— 6N 177—160W	42										3 75.0		1 25.0				4 100	7
	1	タヒチ	15— 18S 151—145W	25									1 2.7	2 5.4	9 24.3	7 18.9	5 13.5	3 8.1		37 100	38
	6	35— 40N 150—180E	35— 39N 150—159E	99					16 8.7	26 14.1	68 37.0	22 12.0	24 13.0	23 12.5	5 2.7					184 100	356
	2	30— 35N 150—180E	29— 36N 152E—178W	48					1 1.5	10 15.4	26 40.0	11 16.9	9 13.8	8 12.3						65 100	143
	2	南洋南部 (170°E以西)	4— 9N 160—170E	42									1 50.0		1 50.0					2 100	2
	1	ソロモン	11— 15S 144—148E	21													2 100.0			2 100	2
	3	ニューカレドニア	11— 27S 147—155E	81											19 28.4	26 38.8	18 26.9		4 6.0	67 100	169
	2	ニュージーランド	31— 39S 176E—179W	33										1 14.3	2 28.6	3 42.9			1 14.3	7 100	7
	1	アラビア	2— 6N 65— 71E	32									7 21.9	12 37.5	11 34.4	2 6.3				32 100	106
めかじき	1	ハワイ南西 (5°N以南)	2— 5N 177—170W	22	尾数 %						2 66.7		1 33.3							3 100	5
	1	タヒチ	15— 18S 151—145W	25					1 25.0			2 50.0				1 25.0				4 100	4
	6	35— 40N 150—180E	35— 39N 150—159E	99			1 3.1	5 15.6	2 6.3	3 9.4	4 12.5	5 15.6	4 12.5	3 9.4	1 3.1	2 6.3	1 3.1		1 3.1	32 100	33
	1	30— 35N 150—180E	29— 32N 175E—178W	24							1 20.0	2 40.0	1 20.0		1 20.0					5 100	11
	3	南洋南部 (170°E以西)	3— 9N 164—173E	65				1 7.1	1 7.1	2 14.3	1 7.1	6 42.9	2 14.3	1 7.1						14 100	14

23

I. Isamu Kamihara.

會員リポート

—(オ 9 号)—

会員　神原　勇　（オ2さつま丸船長）

北部さんご海の10月の氣象、海象及び漁況

天候は半晴又は快晴で、曇のために天測できない様なことはない。氣圧は1015—1018の間を上下して、大きな変化なく日変化のみである。風系はESE—SE—SSEで、風速が弱まつた時にESE—SSEに変化し易く、恒風はSEの風力3—4で、波浪は比較的高いがさほどのうねりをみせないのが特徴である。水温は、11° 30′S 辺の好漁をみたところで25.6—8北側の10°S線では26.3—4で比較的高めである。

海流はグレイト•バーリヤ•リーフに沿流するNNW—N—NNEの流れで、流速も0.5—0.7ノットであまり速くはない。グレイト•バーリヤ•リーフから20浬沖の10°50′S及び11°40′Sには、緯度に略々平行の不連続線がみられ、松の花粉状のものがたゞよつている。それを中心にして、北側ではNW流、南側ではSW流に発散する流れがみられるが、0—0.2程度の微流である。

11°40′Sにある不連続線の北側のNW—NNWの流れのところに好漁がみられ、南側は期待し得ない。キハダは8—12貫で10—11貫のものが中心となつている。グレイト•バーリヤ•リーフにあまり接近するとトラザメ（胃の内容物は殆んどベッコウガメ及び海鳥）のみが釣獲され、距岸6—7浬の水深850—1000mのところがよいようで、距岸10—11浬では1300mを示し、103型音響測深機では測定不能かと思われる。

シロカジキは魚体が大小さまざまで、中程度の群集がみられず、又、魚群は6—7浬附近にあつて、あまり移動しない様に思われたが、SE—SSEに僅かに移動していた様に思われた。1日の平均漁獲は1800—2000貫程度である。　（J.N. 編）

★会員の報告文を掲載する欄を設けています。用紙は水試委託の調査用紙でなくとも結構ですから調査操業した結果、操業後の感想、その他御氣付の点等についてなんでも結構ですから、御投稿をお願いします。

宛先　神奈川県三浦市三崎町神奈川水試内 鮪漁業研究会編集部

（入港時に調査にまわつている試験場職員にお渡し下さつても結構です）

鮪類標識放流について

◇ 昭和33年4月16日から5月15日迄に放流実施の報告のあつた船数は1隻、魚体数は2尾である。

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾數）
6幸漁	C 0131 C 0132	32. 8.10 32.10.20	1°39′S, 175°05′W 20°55′S, 179°30′E	キハダ（2）

比重調整
樹脂加工　クレモナまぐろロープ

特徴
① まぐろの喰ひ良い
② 毎航海のタール染不要
③ 他の追随を許さぬ耐久力と耐摩耗力

営業種目……クレモナ、綿延縄及仕立、漁具一式、救命筏

アサヒテツクスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978・7923番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦 2957番

卵巣熟度を異にするキハダとメバチの分布海域について

榎田昭一（和歌山県水産試験場）

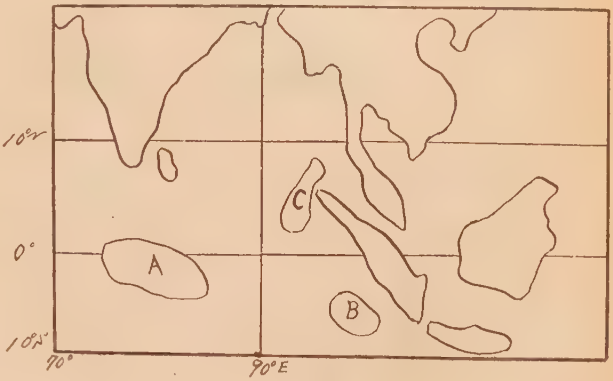
まえがき

筆者は1957年6月から8月までの間印度洋においてマグロ資源調査を行った．この調査の中でキハダとメバチの未熟群と成熟群の出現海域相互の間に興味ある結果を得たので，その概要を報告する．

資料および方法

資料は調査海域をA（2°N～4°S　71°E～84°E）の海域，B（スマトラ南岸）海域，C（スマトラ北岸およびニコバル東岸）海域に区分して整理した．（図・1）

図・1　漁　場　図（調査海域区分）



体長は吻端から尾叉底までの長さを1cm単位まで読取り，また卵巣は両葉合したものを20g単位で秤量し，卵巣熟度の観測は水産庁から示された調査要領（1957）に従って，未熟(1)，初熟(2)，中熟(3)，成熟(4)，放卵後(5)の5段階に区分して行った．

結果および考察

海域別に卵巣の重量および熟度の状態を図・2ならびに図・3に示した．

図・2によるとA海域ではメバチについてみると卵巣重量が500g以上のものと，400g以下のものとに大別され，500g以上のものが多数をしめている．一方この海域のキハダでは160gと250gとの重量に個体の集合が多く，図・3によると，この二つのピークは未熟，初熟群を代表しているように思われる．

セイロン南岸のB海域ではキハダの卵巣重量組成が，Aに比して若干小さい方に偏っていることが認められる程度で，メバチの場合はAと同じで成熟群の出現が多い．ところがC海域では，A，B海域と全く反対の傾向を示していて，キハダでは成熟群，メバチでは未熟群の出現が多い．

同じ種類でも体長の大小によって卵巣熟度は異なり（同じ体長でも個体によって卵巣重量，熟度は必ずしも同一でない．）図・3によると，体長の大きくなるにつれて漸次熟度は高くなるようである．

以上のような点も考慮して海域別にキハダとメバチの未熟，成熟群の出現状態を図・2，図・3から模式的に示すと次のようになる．

表・1　未熟，成熟群の出現状態

海域 魚種	A	B	C
キハダ	×	×	○
メバチ	○	○	×

凡例
○　成熟群（階級1～2）
×　未熟群（階級3～5）

つまりキハダでは成熟群はスマトラ北岸からニコバル東岸にかけて多く，中部印度洋およびスマトラ南岸では未熟群が主体である．

しかしメバチでは反対に中部海域およびスマトラ南岸に成熟群が多く，スマトラ北岸からニコバル東岸にかけた海域では未熟群の出現が多い．

このようにキハダとメバチ相互間で成熟群と未熟群とが棲息海域を異にしているのは極めて興味ある問題である．

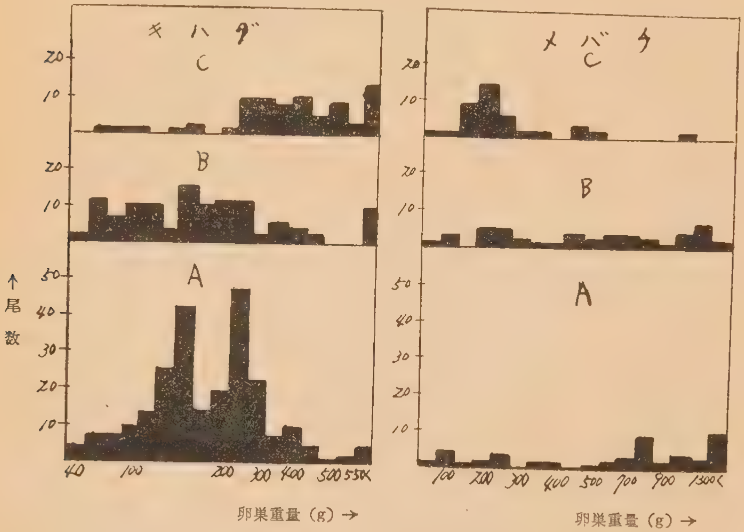
ところで筆者等のキハダ形態調査1)によると，成熟群と未熟群，つまりC海域のものとA海域のものを比較した結果，夫々の群は半ば独立分化した群衆体と考えた方が良いようである．

Schaefer (1948)2)，Godsil (1948)3)，SchaeferおよびWalford (1950)4)，鶴田 (1954)5)，平野・田川 (1956)6)，鉄・檜山 (1957)7)，Royce (1952)8) 等によると，体長と各外部形態との回帰係数の比較からキハダの種は世界全海域に亘り，同一のもので，半ば独立分化した種族が地理的分布に従って存在すると考えているようである．

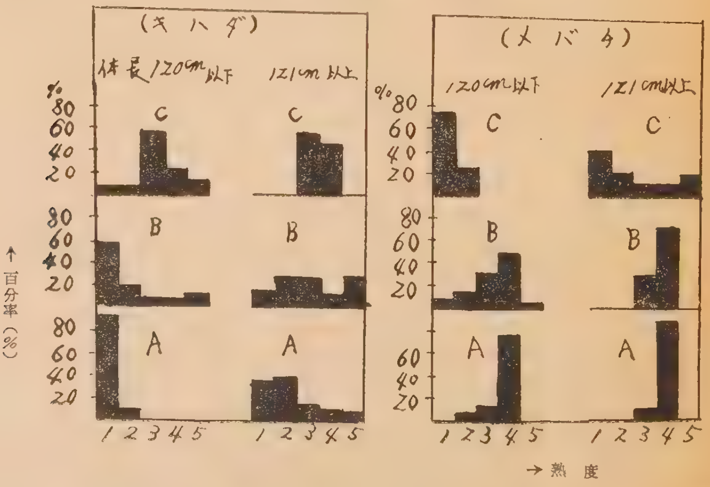
また，中込 (1958) はこのような立場から印度洋東西間のキハダの鰭長の体長に対する回帰係数を比較して中部印度洋のものと東部のものとは系群が異なり，中部と西部のものとは同一系群に属するだろうと説明している．

筆者の結果でも，中部と東部のものの間には特に深い群のつながりは認められなかったので，キハダ・メバチの表・1に示したような出現状態は，熟度を異にする異質の系群が各海域毎に存在していると考えることが最も妥当であろう．

図・2　海域別卵巣重量組成



図・3　海域別卵巣熟度百分率



要　　約

キハダとメバチの卵巣重量および熟度を調査したところ，キハダの成熟群はCに多く，A・Bでは未熟群が多か

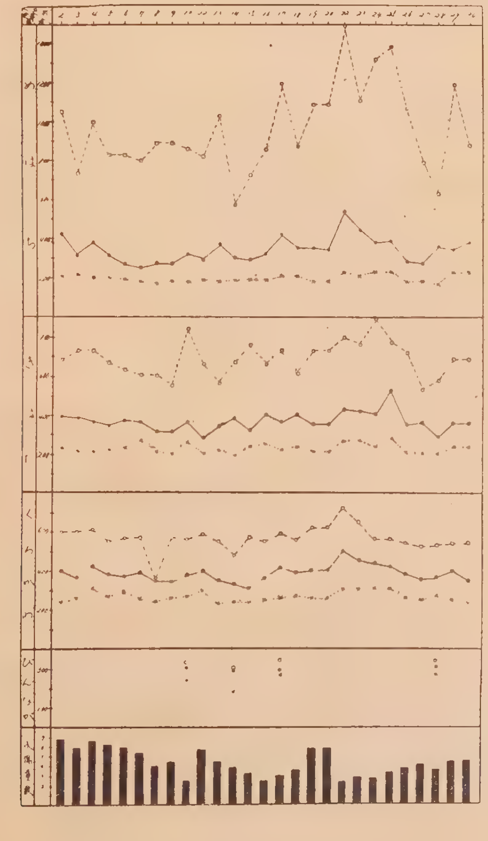
った．一方メバチではキハダと反対の傾向を示していて成熟群はA・Bに多く，Cでは極めて少なかった．つまりキハダとメバチでは熟度を同じくする群の出現海域が全く対称的であることが認められる．

この原因は生態的な意味から色々と理由づけられるであろうが，種族（単に群衆体という意味）の差異を懸念して行われた形態調査の結果，および他の研究者の既往文献から考えて，成熟群と未熟群とがその出現海域を異にしているのは，夫々の群が半ば独立分化した群衆体に属しているところから，産卵生態の夫々の間の差がみかけの上からは海域による差となっているのではないだろうかと考えられる．

報文の発表の機会を与えられた鮪漁業研究会神奈川県水産試験場 中込・古谷技師に記して謝意を表する．

—— 文　　献 ——

1. 和歌山県水産試験場マグロ漁業試験報告　No. 1　未発行
2. Schaefer M.B (1948)　Pacific science　Vol 2, No. 2
3. Godsil H.C (1948)　(Calif. Div) Fish and game, Fish Bull.　No. 70
4. Schaefer M.B and L.A Walford (1950)　(U.S. Fish and wilde life Service) Fish Bull. Vol 51, No. 56
5. 鶴田三郎 (1954)　水産講習所研究報告　3巻 3号
6. 平野修，田川昭治 (1956)　同　上　6巻 1号
7. 鉄健司，檜山義夫 (1957)　日本水産学会誌　23巻 7, 8号
8. W.F. Royce (1952)　Indo-Pacific fisheries council Proceedings 4th Meeting. Section Ⅱ



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十三年四月

おとぎばなし
まえだひろし

タコとナマコ

門司と下関の間，源平合戦で有名な早鞆の瀬戸に満珠（しおみつるのたま）干珠（しおひるのたま）という二つの島があります．

むかし，この周辺に大きなタコとナマコが住んでいました．ある日，そのタコとナマコが，「この島の主はおれだ」「いや，おれさまだよ」と大げんかをはじめたものです．いつまで言い争っても勝負がつかないので，泳ぎに自信満々のタコが提案して曰く，

「どうかね，この島を一まわりして早く帰りついたものが，この島の主ということにしては………」

用意，ドン‼

タコは後もみずに泳いで帰ってくると，不思議ではありませんか．あののろまなナマコが涼しい顔ですでに帰りついていました．仕方ありません．はじめの約束どおりナマコが島の主にきまりました．悪がしこいナマコは勿論，じっととどまっていたのですが，タコは気がつかずそそくさとどこかへ逃げてしまいました．

いまでもこの島にはタコはおらずナマコが沢山とれます。この辺の人たちは悪がしこいことを『ナマコのようだ』といっています．

ボラのプロポーズ

ボラはドン・フアンです．

あのグロテスクな顔をして——

いや，むかしはもう少しましだったようです．まあ聞いて下さい．

成年式（？）をすませたばかりのボラ君はピンクのワンピースをきた優雅なスタイルのヒメダイさんに胸をときめかせていました．近ごろとみに美しくなったヒメダイさん，誰かのところへお嫁にいくのではないかと気が気ではありません．ある日，彼はたまりかねて言いました．

「ボクのお嫁さんになってくれませんか？」その結果は？ いまのボラ君の頭をごらんになればお分りでしょう．

「まあ！ いけすかない！」といったかどうかは分りませんが，ヒメダイさんにヒジ鉄ならぬ頭をコチンとやられてあんなにつぶれたような頭になってしまったそうです．

しかし，そんなボラ君もオコゼが，

「私と結婚して………」

といった時，

「お前のムコになるくらいなら身を投げて死ぬわい」

とうそぶきました．ボラが時々，はね上るのはそのためだと伝えられています． （松山市の三津浜ほか）

ハゼの関所

エビとメダカがある日，お伊勢まいりをすることになった．エビはピンピン，メダカはチャポチャポしながらハゼの関所まで来ると番人のハゼが，

「どっこいならぬハゼの関所」

とひどい権幕で通してくれない．仕方がないのでエビとメダカは帰っていった．

ところが，こんどは大きなコイが，ガボガボとやって来た．ハゼが前のように止めると，コイは怒ってハゼの尾をつかんで土手に放り上げてしまった．

土手のハゼは，

〽エビとメダカは止めてもみたが，止めてとまらぬコイ（恋）の道よ，ハゼ（はじやりはやし言葉）はドンコドンコ

と歌いましたとさ．

*会員の皆様にはいろいろと御配慮を頂き有難うございます．研究会では皆様の御苦労をねぎらう意味で，農林省水産講習所の前田弘先生にお願いして，今月より水産に関するおとぎばなしを二，三篇づつお話しして戴くことに致します．よろしく御愛読下さい．

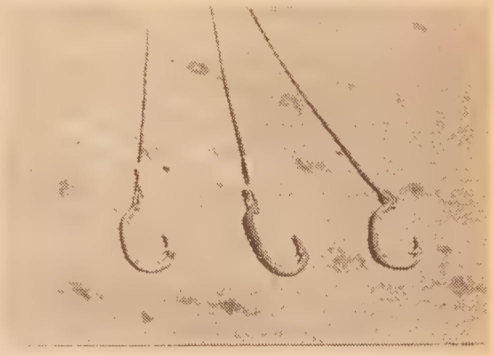
新漁具紹介——

Introduction of new fishing
equipment, [illegible] luminous [illegible]
[illegible] Yoshiaki
(Permission Attached)

発光漁具 発光餌

会員 池田義明

発光餌といってもその構造は径 5mm 程の真鍮管の外面に発光塗料フイルムを収納し，これを透明ビニールで保護した簡単なものである．その使用法は釣鈎を捲く時，釣元ワイヤーに発光餌を先に通し，右の写真に示す様に捲いて使用し，暗い海中に於て魚の餌への誘導及び集魚の役目を果たし釣獲率の向上をもたらそうとするものである．



Co[illegible]

現在この発光餌は主としてマグロ漁業に使用し，神奈川水試江の島丸外宝幸水産，報国水産，大洋漁業，住吉漁業，五洋水産ＫＫ等の約40隻所属船で使用しているが，マグロ以外の漁業にも充分利用出来るものと考えられる．その使用結果からみると特に時間は夜間，明け方によいといわれ，ビンチョウには特別喰いがよいといわれている．

（神奈川水試漁撈部 技師）

鮪漁業に画期的成果をもたらす発光漁具

発　光　餌

実用新案特許出願中

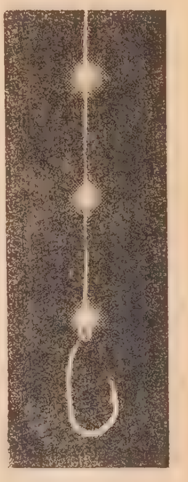
1. 本品は自発光塗料を使用し，蓄光塗料と異り，いつまでも光り続ける自発光性を持つ事を特徴とします．
2. 釣針の上部に取付けた本製品は海中で螢のように発光し集魚の効果を揚げ海中で変質する事なく数年間光度を持続します．
3. 本品を発売してよりまだ日が浅いにもかかわらずその性能を認められ各方面よりの御好評を得ております．

御採用先

大洋漁業ＫＫ，報国水産ＫＫ，宝幸水産ＫＫ，昭和漁業ＫＫ，焼津遠洋漁業協同組合，その他所属船数十隻

ルミナス産業株式会社

本社工場　東京都品川区大崎本町3丁目607番地
電話大崎（49）1872・1873番



業界メモ

1958年４月～５月

４月30日　相模丸漁場に到着

東部太平洋の新漁場調査に向った神水試相模丸（700トン）は28日漁場に到着，直ちに調査を開始した．第１回目漁場南緯０度30分西径132度27分，メバチ49キワダ16，クロカワ16，マカジキ24，メカジキ５，その他で約1,400貫であった．（港報）

５月10日　インド洋漁場安定の兆し

今までインド洋にはクロカワカジキの好漁場はないものとされていたが，三崎港所属第２海和丸（344トン）はアラビア海で30回操業クロカワ千数百本を漁獲この程帰港した．漁場は東径64～69度北緯4～7度のアラビア海，インド洋でこの様に大量にクロカワが漁獲されたのは珍らしいので付近出漁の各漁船は一斉に注目した．また最近セイロン東側漁場から帰港した漁船はいずれも25～6回で満船１回700～1,300〆，とくにキハダ，メバチが多くメバチは総漁獲高の３分の１を占め，昨年より同漁場の漁況がよくなっていることは，はっきりしているといわれ，荒廃を伝えられるインド洋がそろそろ安定してきた証拠と見られている．（港報）

５月19日　大洋，報水両鮪船団

大洋漁業の第３天洋丸鮪船団は12日東京を出港したが，漁場フイジー諸島海域到着は27日頃である．同船団はキャッチャー30隻，150万貫の漁獲目標９月４日漁場切揚げ同月17日東京帰港の予定である．

報国水産の海幸丸鮪船団は20日東京出港ギルバート南西海域及びハワイ西南海域漁場に向うが，同船団編成はキャッチャー18隻，漁獲目標111万7千貫，６月５日より９月30日まで操業10月17日神戸帰港の予定である．（新水産）

５月19日　第16東丸大西洋より帰港す

大洋漁業ＫＫ大西洋派遣第１船としてイタリアのベニスを基地として操業を続けていた第16東丸（467トン）は１年３ヵ月振りに21日東京に帰港するが，同船は昨年５月ベニスに第１回の水揚をしてから２月まで４回28万貫を水揚げ，帰途操業を続けながらケープタウン経由にて帰港する．（港報）

５月22日　全魚艙が冷凍室の新造鮪漁船

静岡県金指造船所建造の広島県漁業公社第１広島丸（378トン）が21日三崎基地に回航されてきた．この新船の特徴は冷凍能力を特別に大きくしたことで１日漁獲物7.5トン（２千貫）を処理出来るが（普通約千貫）このために冷凍準備室を極度に狭くし，さらに全魚艙を冷凍室としている．（港報）

５月28日　マグロの生態調査

南海区水研では公庁船の組織化によるマグロの生態調査について全国の水試，水高に呼びかけ本格的な調査を行うことになった．これは漁場ごとにマグロの体長を測定したり，何才魚が獲れるか，成長度や生殖腺，産卵海域などによる産卵調査，稚魚や消化管内の幼魚の採取，血液採取によるマグロの種族系などの調査を行うものである．（日本水産）

５月31日　標識ビン長 野島沖で再捕

宮城県女川尾浦港所属第２共和丸（150トン）は野島沖300浬の東径144度15分北緯32度15分の地点でカツオ群に混った標識ビンチョウを釣りあげ29日焼津に入港，東北水研焼津出張所に提出した．この標識魚は番号6532で，体重11.93キロ（3貫180匁）体長85.2センチ胸ヒレの長さ39.4センチあり，脊ビレ後方の標識をさしこまれた傷は完全に癒着していた．（港報）

* * *

本會の圖書誌の分譲其の他について

◎ 本会發行の圖書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

會　　誌「鮪漁業」　才6—50号（才1—5号品切）	才6—28各100円 才29—50号各150円	郵送料16円
鮪類水揚地調査報告（自昭和27年5月　至昭和28年4月） 1部　300円　（B5判150頁）		郵送料　24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和28年5月　至昭和29年3月） 1部　400円　（B5判226頁）		郵送料　40円
鮪類水揚地調査報告（自昭和29年4月　至昭和30年3月） 1部　300円（送料を含む）（B5判126頁）		

◇ 上記の昭和28年度、29年度、30年度分3冊一括購入の場合 特價 800円（送料共）

鮪漁船操業圖（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込） 1枚　50円	郵送料　8円
鮪漁場図（32海區割に表示したもの） 10枚　100円	郵送料　16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

——お願い——

◎大變恐縮ですが昭和32年分會費（1.700円）未納の方は本會宛至急拂込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。尚整理の都合もあり會費切れの向には一時會誌の送本を中止することに致しますからお含み願いあげます。

鮪漁業

1958年6月号

昭和33年6月10日印刷
昭和33年6月10日發行
監修　神奈川縣水産試験場調査部
編集兼發行人　菅野進
神奈川縣三浦市　神奈川県水産試験場内
發行所　鮪漁業研究会

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

冷凍・冷藏・製氷工場
急速・空氣凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷藏

設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　東京（866）0996・0997番

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　碎氷設備毎時50屯2基完備

（向ケ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産 一七屯 ―――― 冷藏収容量 六〇〇屯
製氷能力　日産 五〇屯 ―――― 貯氷能力 五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）2609・2655番

倉敷
ビニロン
クレモナ **万漁**

鮪延縄◆ロープ◆漁網

くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

◇新時代の冷凍機◇
（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設
設計・製作・施工

株式会社　**東洋製作所**

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2171—9番（49）2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表0974—5（36）2171—9（内線350—1）

鮪漁業　第五十号　昭和三十三年六月十日発行
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可
（毎月一回十日発行）

800屯ドライドック完成

<table>
<tr><td rowspan="4">船渠</td><td rowspan="2">大きさ</td><td colspan="2">長さ</td><td colspan="2">幅</td><td>深さ</td></tr>
<tr><td colspan="2">59.15 米</td><td colspan="2">14.0 米</td><td>6.6 米</td></tr>
<tr><td rowspan="2">入渠可能船舶</td><td>長さ(垂線間)</td><td>幅（型）</td><td colspan="2">吃水(平均汐高線1.7米に於て)</td><td>総屯数</td></tr>
<tr><td>57.0 米</td><td>11.0 米</td><td colspan="2">4.41 米</td><td>800 屯</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">船台兼船架</td><td rowspan="3">建造又は上架可能船舶</td><td>構造</td><td>長さ</td><td>総屯数</td><td>数量</td></tr>
<tr><td>4条軌条算盤式</td><td>50 米</td><td>500 屯</td><td>2</td></tr>
<tr><td>2条軌条式</td><td>50 米</td><td>250 屯</td><td>2</td></tr>
</table>

SHIMODA DOCK

下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都港区芝田村町 4―13　電話 芝（43）2539・8655番

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町